

# Oracle Enterprise Manager 13c

## ハードウェアと仮想化の管理



Oracle Enterprise Manager は、ユーザーのデータセンターにある Oracle 環境と Oracle Cloud にある Oracle 環境の一元的な管理を可能にするオラクルのオンプレミス管理プラットフォームです。Oracle 製品スタックと緊密に統合された Oracle Enterprise Manager は、Oracle のエンジニアド・システム、データベース、ミドルウェア、およびハードウェアの管理と自動化で市場をリードしています。

Oracle Enterprise Manager は、アプリケーションからディスクまでを自動化してビジネスの俊敏性を高め、Oracle スタックのインテリジェント管理を通じてサービス・レベルを最大化します。また、ライフサイクルの包括的な自動化、ハードウェアとソフトウェアとの統合管理、事前監視、およびコンプライアンス制御を通じてコストの削減を実現します。

### 機能

- Enterprise Manager システム・インフラストラクチャ (EMSI) プラグイン
- Oracle 資産の検出
- システム・インフラストラクチャのユーザー・インタフェース
- 監視と管理
- エンジニアド・システム管理
- 自動メンテナンス

### 概要

Oracle Enterprise Manager システム・インフラストラクチャ (EMSI) プラグインでは、スタックの下半分を全社規模で表示でき、Oracle Solaris および Linux オペレーティング・システム、SPARC/x86 エンジニアド・システム、SPARC/x86 スタンドアロン・サーバー、仮想環境 (Solaris Zones と OVM for SPARC)、ZFS Storage Appliance、Oracle スイッチを含むほとんどのターゲットを監視することができます。また、SPARC コンピュート・ノードが Oracle ZFS Storage Appliance、Exadata Storage サーバー、およびネットワーク・スイッチとともに 1 つのマルチトラック・システムに統合された Oracle SuperCluster などのエンジニアド・システムも監視することができます。

関連するハードウェア障害がアプリケーション・ダッシュボードに伝えられるため、スタック全体を 1 つのツールで管理する真の一元管理が実現します。

このプラグインは My Oracle Support に統合されているため、サービス・リクエストが自動化され、Oracle Support ナレッジ・ベースにアクセスして問題を解決することができます。

### インフラストラクチャ資産の検出

Oracle Enterprise Manager 13c は、すべての Oracle 資産 (サーバー、ストレージ、ネットワーク、仮想システム、オペレーティング・システムなど) を迅速に検出します。Oracle Solaris および Linux オペレーティング・システムは、ホストの検出とプロモーションのプロセスで検出され、プロモートされます。Oracle Solaris Zones と Oracle VM Server for SPARC がホストに存在する場合は、ホスト検出の際に検出されます。

サーバーの検出と追加は、ホスト検出とは別に実行することも、ホスト検出の一環として実行することもできます。検出が完了すると、ストレージとネットワークの関係から物理/仮想サーバーまでの資産を使いやすい形式で表示できます。

## 監視と管理

システム・インフラストラクチャ・プラグインが収集した情報は、最新のユーザー・インタフェースに表示されます。ターゲット・ホームページは、ターゲットのタイプ、およびターゲットが Oracle VM Server for SPARC と Oracle Solaris Zones 仮想化テクノロジーのどちらを使用しているかによって多少異なります。

ターゲットのオープン・インシデント、リソース使用率、およびメトリックがダッシュボードに表示されるので、高可用性と最適なパフォーマンスの維持に役立ちます。ユーザー・インタフェースのタブには、さらに詳細なメトリック情報が表示されます。情報は、グラフ、表、チャート、概略ビュー、およびフォトリアリスティック・ビューで表示されるため、コンポーネントのステータスとコンポーネント間の関係をすばやく把握できます。

ホームページでは、ステータスを迅速に参照し、潜在的なリソースの問題を特定し、さらに特定のターゲットのサービス・リクエストと構成履歴を参照することができます。このページから、オープン・インシデントの詳細にドリルダウンしたり、詳細なメトリックやゲストの詳細情報を表示したりできます。

ダッシュボードは、重要な情報の概要と、詳細に監視すべき情報が表示されるように設計されています。この情報は、ダッシュレットと呼ばれる一連のセクションに表示されます。図1は、Oracle システム・インフラストラクチャ・サーバー・ターゲットのホームページに表示される最初の3つのダッシュレットの例です。最初のダッシュレットにはターゲットの詳細が表示され、2番目のダッシュレットにはオープン・インシデントの数と重大度レベルが示されています。3番目のダッシュレットには当該ターゲットの温度が表示されています。オープン・インシデントのダッシュレットの下には1つ以上のボタンが表示され、ボタンをクリックすると次の一連のダッシュレットに移動します。



図1: ターゲットのダッシュレット

管理対象のターゲットは、一連の監視ルールとパラメータによって監視されます。想定したとおりに動作していないリソースについては、アラートとインシデントが生成されます。

ホストにデプロイされた管理エージェントによって、ターゲットのアクティビティ、ステータス、パフォーマンス、および状態の情報が収集され、追跡されます。ターゲットのタイプによっては、ターゲットのホームページにグラフ、チャート、表が表示され、より詳細な情報を一目で確認することができます。複雑なターゲットのホームページには、動的なフォトリアリスティック・ビューと関係チャートが表示されます。場合によっては、イメージを対話操作して、ハードウェアのデプロイ状況やリソースの使用状況を詳細に把握できます。

次のチャートとビューを使用すると、ターゲットを迅速に評価でき、関係を一目で確認できます。

- **関係チャート**：リソースがゲスト間でどのように割り当てられているかが表示されます。たとえば、Oracle VM Server for SPARC の「システム・インフラストラクチャ仮想化プラットフォーム」ページには、vCPU とコアの割当てを表示する「コアの分散」タブがあります。チャートには同心円が表示され、そのセグメントには、どの CPU とコアがどのゲストに割り当てられ、どれが割り当てられていないかが示されます。外側の輪の中のゲストをクリックすると、そのゲストのリソース使用に関する詳細な情報が表示されます。
- **フォトリアリスティック・ビュー**：ハードウェア・ターゲットのコンポーネントとポート、およびオープン・インシデントの有無が表示されます。たとえば、Oracle SuperCluster エンジニアド・システムのモニタリング・ページには、ラック内でのシステムのレイアウトがわかるフォトリアリスティック・ビューが表示されます (図2)。システム内のすべてのアクティブなターゲットがイメージで表示されます。イメージ内のターゲットにマウスを合わせると、さらに詳細な情報が表示されます。エンジニアド・システムのコンポーネントにオープン・インシデントがある場合は、コンポーネントが赤枠付きのイメージで表示されます。

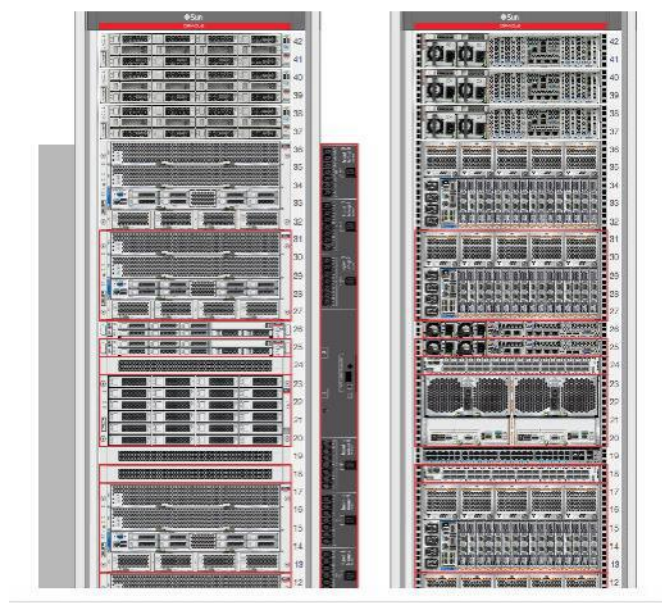


図2：SuperClusterターゲットのフォトリアリスティック・ビュー

- **構成図ビュー**：エンジニアド・システムのコンポーネントのラベルを表示するシンボリック・ビューが表示されます。エンジニアド・システム内のサーバー、ZFS Storage Appliance サーバー、InfiniBand スイッチ、および PDU の LED ステータス (稼働中、停止中、またはブラックアウト) と温度が一目でわかります。

### エンジニアド・システム管理

Oracle Enterprise Manager Cloud Control 13c では、ハードウェアとソフトウェアの統合ビューで、コンピュート・ノード、Exadata セル、InfiniBand スイッチなどのハードウェア・コンポーネントを参照し、管理することができます。

Oracle Enterprise Manager Cloud Control 13c では、アプリケーションからディスクまでを監視できます。Oracle Enterprise Manager Cloud Control 13c の注目すべき新機能は次のとおりです。

- Exadata および Exalogic での VM のプロビジョニング
- Exadata フラッシュ・キャッシュ機能のサポート
- EXAchk を使用したヘルス・チェック
- 自動サービス・リクエスト (ASR) の統合：障害テレメトリ
- Exadata および Exalytics のエンジニアド・システムに対する自動パッチ適用

### 自動メンテナンス

Oracle Enterprise Manager 13c のインフラストラクチャ管理は My Oracle Support に統合されているため、サービス・リクエストが自動化され、Oracle ナレッジ・ベースにアクセスして問題を最適に解決できます。

### まとめ

Oracle Enterprise Manager は、物理サーバーと仮想サーバーのライフサイクルを包括的に管理する費用対効果の高い統合ソリューションを提供します。また、包括的なプロビジョニング、パッチ適用、監視、管理、および構成管理の機能を Web ベースのユーザー・インタフェースで提供することで、Oracle Solaris および Linux オペレーティング・システムと仮想環境 (Solaris Zones と OVM for SPARC) の管理に伴う複雑さとコストを大幅に軽減します。さらに、Oracle Sun ハードウェアを使用すれば、サーバー、ストレージ、ネットワーク・インフラストラクチャの各レイヤーに関する詳細な情報を得て、膨大な数のシステムをスケーラブルに管理できます。Oracle Enterprise Manager を使用すると、仮想化とクラウド・コンピューティングの採用を加速化して、IT リソースの最適化、ハードウェア使用率の改善、IT プロセスの効率化、コストの削減を果たすことができます。

お問い合わせ

Oracle Database Lifecycle Management Pack について、詳しくは [oracle.com](http://oracle.com) を参照するか、+1.800.ORACLE1 でオラクルの担当者にお問い合わせください。

**ORACLE**

CONNECT WITH US



[blogs.oracle.com/oracle](http://blogs.oracle.com/oracle)



[facebook.com/oracle](https://facebook.com/oracle)



[twitter.com/oracle](https://twitter.com/oracle)



[oracle.com](http://oracle.com)

### Hardware and Software, Engineered to Work Together

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle および Java は Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴおよび AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。0115



Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment